

繊維産業のサステナビリティに関する検討会 供給構造について

(一社) 日本アパレル・ファッション産業協会
副理事長 松尾 憲久
マツオインターナショナル (株) 代表取締役社長

JAFIC

2021年3月29日

1. 供給構造について
2. 課題
3. 過剰供給の防止
 - － 会員企業の取組

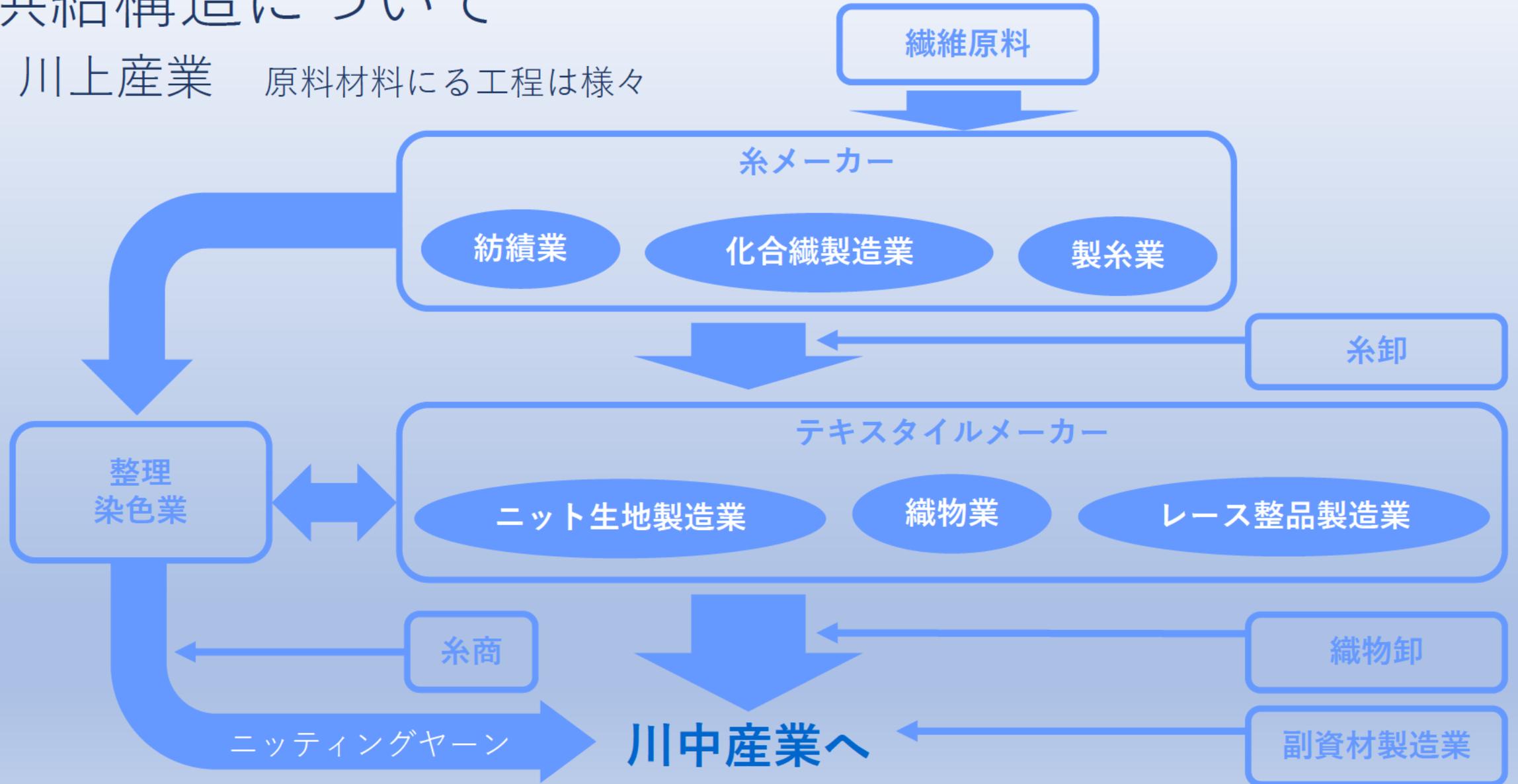
供給構造について

長く複雑なサプライチェーン そのすべてにリードタイムとロットが介在



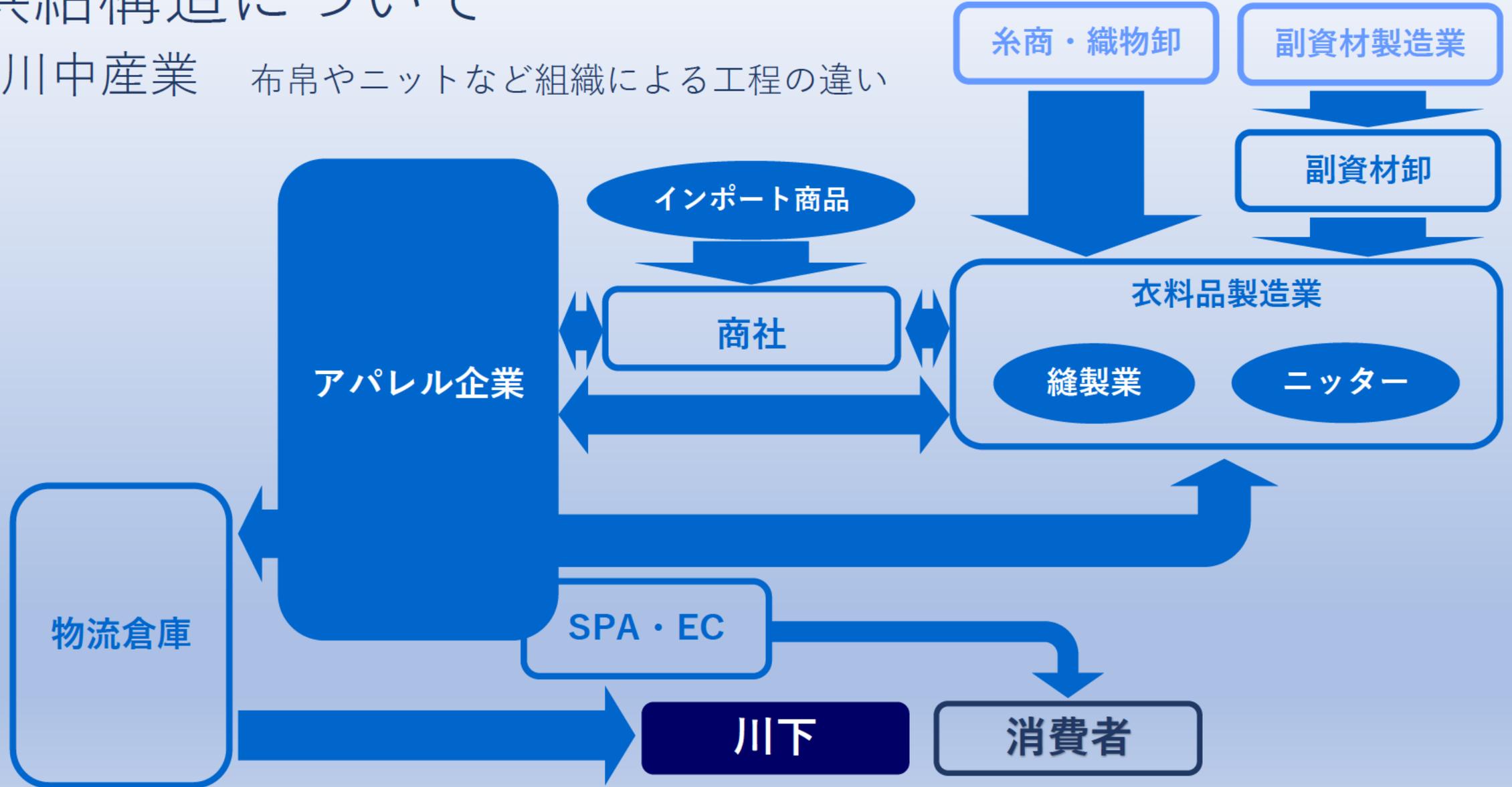
供給構造について

川上産業 原料材料になる工程は様々



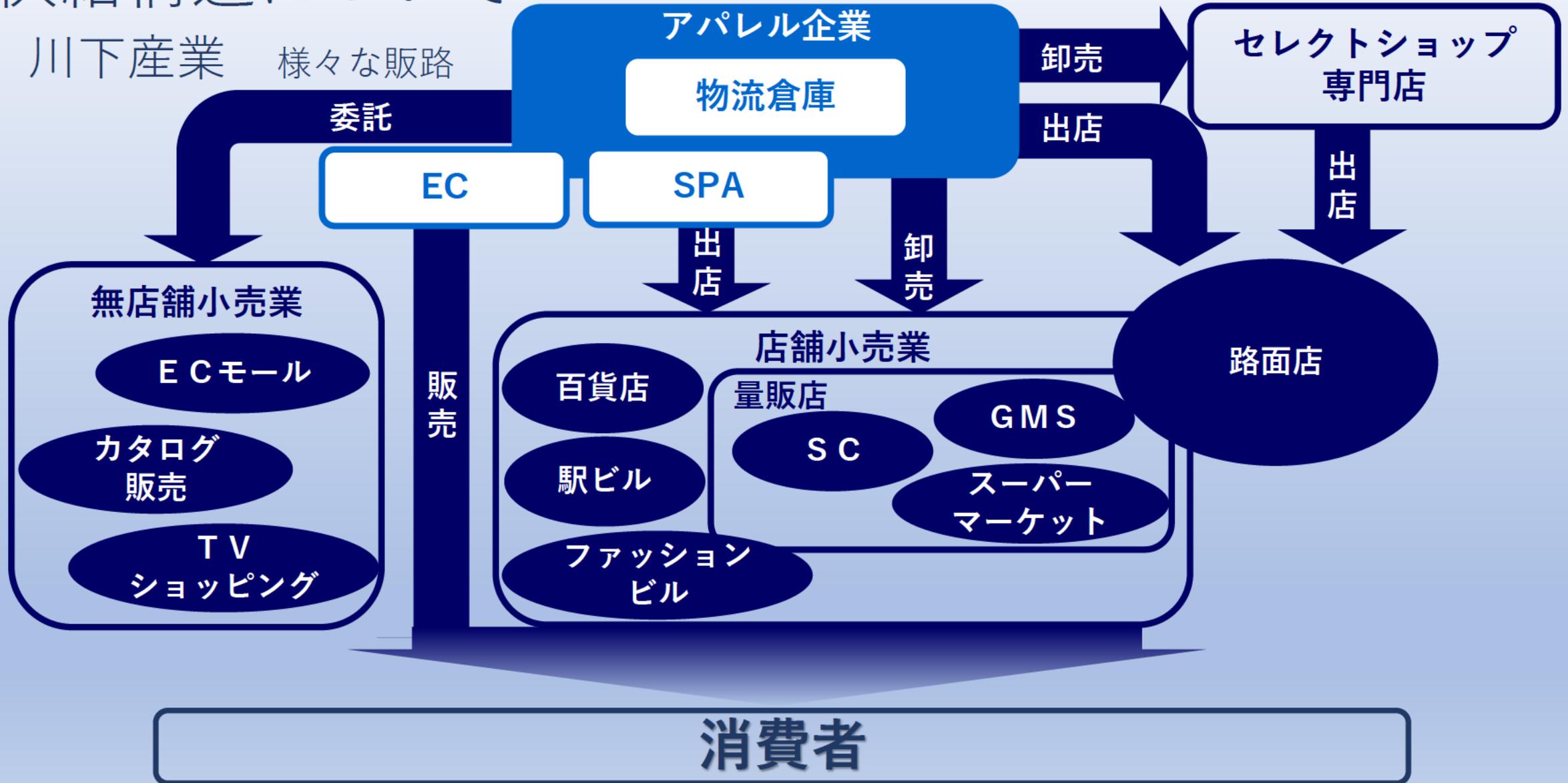
供給構造について

川中産業 布帛やニットなど組織による工程の違い



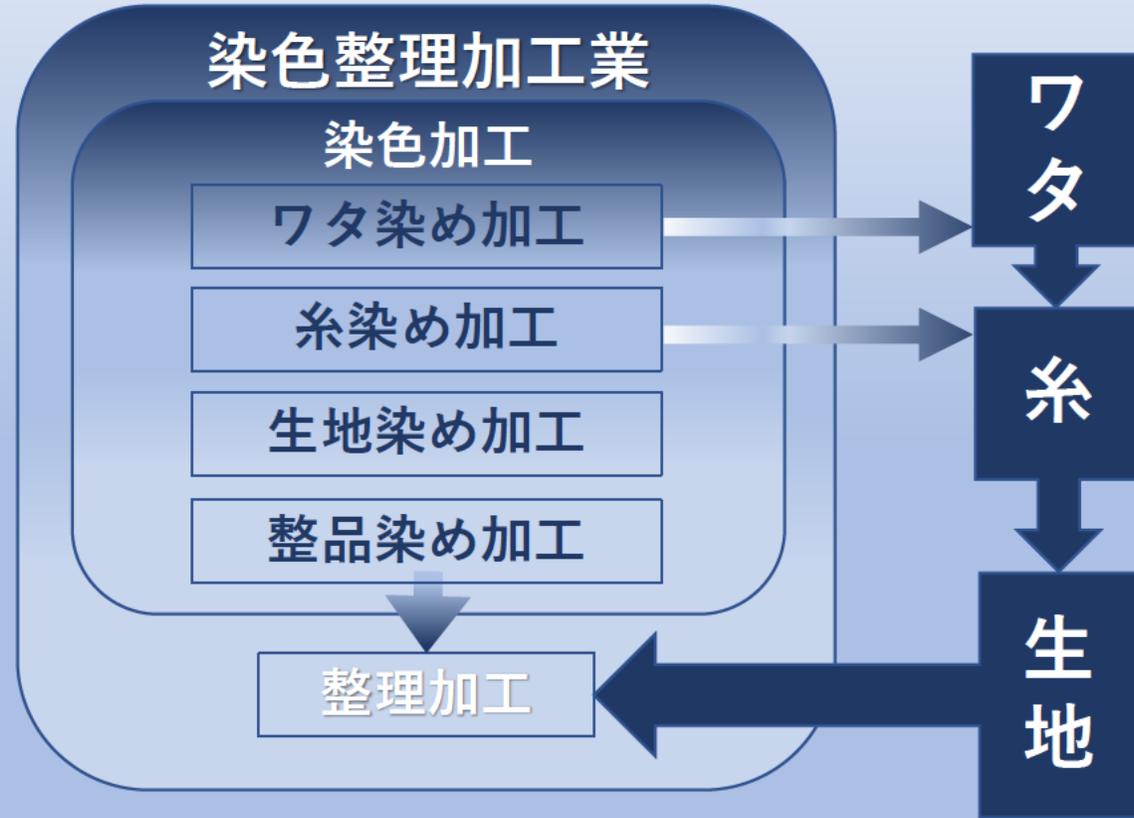
供給構造について

川下産業 様々な販路



供給構造について

細分化された分業体制（例）



着色はワタ、糸、生地、または整品
様々な段階で染色が行われる



繁忙期には下請け、孫請けに
一部工程が回される

繊維産業の特殊性



○○
××
 で囲われた産業は殆ど独立している

課題

サステナブル対応への構造課題

・長いサプライチェーン

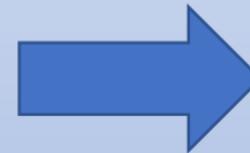
各工程の企業に対し発注者のサステナブル意識
がどこまで届くか



繊維産業全体での取組

・各工程でのリードタイムとロットの克服

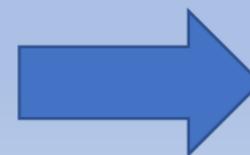
糸、生地、染、裏地、附属等の
ーリードタイム（トレンドの機会損失）
ーロット（発注量との乖離）
大ロットによるコストの軽減



**無駄の削除
産地企業の維持**

・細分化された分業体制

発注企業の人権や労働環境等の管理が
行き届かない



**工場監査の徹底
各企業の意識向上
外国人技能実習生の雇用延長**

過剰供給の防止

会員企業の取組

発注精度の向上

- ・ 売り減らし体質の改善
- ・ カスタマイズ企画の強化拡大、受注生産比率の向上、定番比率の向上（販売期間の長期化）
- ・ SNSを活用した消費者とのコミュニケーションを活性化
（要望をタイムリーに反映→消化率向上）
- ・ 販売状況に応じた追加生産、期中新規企画、のきめ細かい軌道修正（無駄の排除）
- ・ DXの推進（AIによる発注精度の向上）

リードタイム短縮によるロスの軽減

- ・ 自社工場スマートファクトリーへの取り組み
- ・ 商品企画における3Dシミュレーションソフトの活用
（企画から販売までのリードタイム短縮とサンプル生産量・生産費の削減）
- ・ 販路の見直しによる在庫ロスの軽減

過剰供給の防止

会員企業の取組

販路の見直しによる在庫ロスの軽減

- ・ 展開店舗数の縮小（在庫効率の向上）
- ・ ショールーミング店舗のトライアル展開
- ・ Eダイレクト等の活用による店頭と倉庫在庫の一元化
- ・ 直営店の拡大
- ・ 卸事業から自主運営店舗への転換を推進（シーズン後の返品削減、効率的な店間移動）
- ・ ECとリアル店舗の連携

SKUの見直しによるロスの軽減

- ・ 定番商品型数のUP（シーズンMDと年間定番MDの区分け明確化）
- ・ ブランドの大幅な改廃によるSKU数の削減
- ・ 商品計画におけるシーズン区分数を見直し型数の削減

過剰供給の防止

会員企業の取組

最終販売の強化

- ・ アウトレット店舗販売強化
- ・ ファミリーセールスの活用による売り減らし
- ・ ECとリアル店舗の連携（廃棄の更なる削減）
- ・ 販売期間の見直しによる最終在庫の減少

新業態参入による消化率の向上

- ・ サブスクリプション事業、コーディネートレンタル等への商品供給
- ・ 子供服のシェアリングプラットフォーム

過剰供給の防止

会員企業の取組

衣料品循環システムの構築

- ・衣料品引き取り（リサイクル活動：軍手/途上国、リユース販売：EC他）
- ・2次流通販売店出店
- ・リメイクブランドの発売（古着を国内工場で新たな価値を付加した商品として販売）
- ・アップサイクルブランドによる残在庫の再価値化（在庫の「黒染め」FROMSTOCK）
- ・傷物をリペアして安価に販売
- ・一部を素材分類してマテリアルリサイクル
- ・製品寿命の長期化を目指す設計、自社でのリペア、カスタマイズサービスを推進
- ・資材のアップサイクル化（不要な衣類を回収し新しい資源にリサイクルする）
- ・再繊維化率の向上

需給バランスの変化

時代	技術革新	川中	販路	需給バランス
戦中戦後	紡績 産地	生地問屋	洋裁店 オートクチュール 自宅でミシン (洋裁が婦女子の嗜み)	受注生産
1945年 ～1965年 もはや戦後ではない	後染め と プリント	アパレルの勃興 既制服の時代 プレタポルテ	洋品店 百貨店	消費拡大 供給不足
1965年 ～1985年 ファッションの時代	織物 から ニットへ	D C アパレル 個性派と トータルコーディネート	店持ちアパレル ワンブランドショップ	消費多様化 供給多様化
1990年 ～2005年	カットソーの多様化	インポート × ベーシック	セレクトショップ S C ・ F B	選択消費 海外生産
2005年～	大量生産 転写プリント	ファストファッション カテゴリーキラー	モール 駅ビル	価格指向 供給過剰